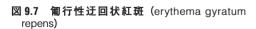




図 9.6② 遠心性環状紅斑 (erythema annulare centrifugum)



デルマドローム MEMO (dermadrome, skin manifestations of internal disorders)

~数か月で軽度の色素沈着を残して治癒する。瘙痒などの自覚症状は通常なく、年余にわたって再発を繰り返すことも珍しくない。

病因

原因不明. 一部の症例では慢性感染病巣(扁桃炎,齲歯など) や内臓悪性腫瘍が関与することもある.

病理所見

真皮全層の血管周囲に、coat-sleeve 状と表現される密なリンパ球細胞浸潤を認める。

治療

ステロイド外用や抗ヒスタミン薬内服を行う. 原因疾患が推 定できるときは、その治療を行う.

2. 葡行性迂回状紅斑 erythema gyratum repens

体幹および四肢に生じる規則正しい縞模様~木目状の環状紅斑で、急速に広がり痒みが強い(図 9.7).80%以上の症例で肺癌などの内臓悪性腫瘍が発見されるが、他の疾患(SLEや乾癬など)、あるいは基礎疾患なく生じることもある。内臓悪性腫瘍の治療により速やかに消退する。

3. 壞死性遊走性紅斑 necrolytic migratory erythema

グルカゴノーマ(グルカゴン産生膵内分泌腫瘍)に伴う皮膚症状. 辺縁に水疱, びらん, 痂皮や膿疱を伴い, 中央に色素沈着を残して環状または地図状に拡大する. 数週間の経過で増悪と軽快を繰り返す. 殿部, 下肢, 顔面に好発し, 亜鉛欠乏症候群(17章 p.323 参照)に類似することがある. 舌炎や口角炎を伴うことも多く, 皮疹と同様の機序で生じるとされる.

4. リウマチ性環状紅斑 erythema annulare rheumaticum

同義語: erythema marginatum (rheumatica)

症状・病因

レンサ球菌感染症であるリウマチ熱 (rheumatic fever) の 初期に生じる環状紅斑で、約 $5\sim30\%$ の症例で出現する。主